

丸山県単急傾斜地崩壊対策事業について



安芸土木事務所室戸事務所 仙頭久也

本事業は、室戸市三津丸山地区の要援護者関連施設である特別養護老人ホーム「丸山長寿園」（入居者100名、常勤職員63名）を斜面崩壊から守るため、県単独事業により急傾斜地崩壊対策事業を実施したものです。

施設周辺の地形は海岸段丘で、施設の背後には長大で急峻な斜面が迫る一方、施設から海岸線までは約50mしかありません。

南海トラフ巨大地震時には、地震発生後、10分～20分で津波が到達し、5～10mの浸水も想定されていますので、土砂災害対策に加えて丸山長寿園、室戸市、当事務所の三者で津波対策についても検討を行いました。

その結果、県が対策工として実施する待受けタイプの擁壁の前面に室戸市が津波避難の場所を確保することになりました。

ただ、想定以上の津波が発生する恐れもあるため、その際、容易に擁壁背後に避難できるような擁壁間にスペースを確保した形式で擁壁を整備しました。

事業実施にあたり、ご協力いただきました地権者の方々、丸山長寿園及び室戸市ほか関係機関の皆様はこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

今後も引き続き、幅広い視点で防災対策を検討し事業を実施していきたいと考えています。



「自然の恵み豊かな室戸市」



室戸市長 小松 幹侍

室戸市は、江戸時代から明治の終わりまで、クジラ漁、その後カツオ漁、昭和になるとマグロ漁などの遠洋漁業の基地として栄え、現在では室戸岬の東海岸は、栄養が豊かな海洋深層水が湧きあがってきていることから、よい魚場となっており、定置網漁も盛んに行われています。

さらに、海洋深層水が湧き上がってくるポイントは、良好な魚場だけでなく、大型のマッコウクジラがあらわれるのでホエールウォッチングには絶好のポイントにもなっています。

このほか、およそ1200年前に、弘法大師が修行をした御厨人窟や行水の池、四国霊場の最御崎寺（ほつみさきじ）、津照寺（しんしょうじ）、金剛頂寺（こんごうちょうじ）など多くの弘法大師ゆかりの地があり、数多くの方々が巡礼に訪れております。

秋になりますと、市内各地では五穀豊穡を感謝する神祭がとり行われ、それぞれの地域で培われてきた歴史と伝統がみられます。その中で室戸独特なものとして、時事問題や世の中の出来事などを、庶民の立場で風刺するユニークな即興の寸劇狂言である、「佐喜浜俄（国の無形文化財・県の無形文化財）」があり、多くの方々が見に来られます。

これからの季節は、気候も穏やかで、世界認定された室戸ジオパークの地形や自然の探勝と併せて、室戸ならではの海の幸、山の幸も存分に楽しむこともできます。

ぜひ、室戸においでください。

一方、防災の取り組みにつきまして、室戸市は南海地震時に震源地に近いことから、早いところでは地震発生後5分以内に津波の第1波が到達するといわれています。人家の前が海岸、背後は山という地形のため、津波から避難する場所は、背後の山しかありません。さらに、室戸市の高齢化率は40.8%（H25.8月末時点）となっており、高齢者の方が迅速に避難することも大きな課題となっています。

つきましては、津波による被害を最小限にするために、今後とも住民の方々と協働して、防災力の向上や避難路などの整備を行ってまいります。

